

平成 18 年 11 月 22 日 記者会見 質疑応答(埼玉)

発表内容：埼玉りそな銀行の平成 18 年度中間決算および平成 18 年度業績予想について

日 時：平成 18 年 11 月 22 日(水) 17 時 15 分～17 時 45 分

場 所：埼玉県政記者クラブ

発表者：川田社長、渡辺常務、野口りそなHD執行役

【質疑応答】

Q . 不良債権比率が前年度末と比べ若干上昇している点、また、一般貸倒引当金について前年度は戻入計上、今年度中間期は繰入計上している点を説明してほしい。

A . 不良債権比率は開示基準の厳格化等により若干上昇していますが、オフバランス化や再生支援等により今年度末は 1.5%程度を見込んでおり、1%台半ばで安定推移しています。

一般貸倒引当金につきましては、前年度は企業業績の改善が進み戻入を計上しましたが、今年度中間期は引当強化等により繰入を計上しています。より厳格な引当を実施したものであり、企業業績が悪化しているということではありません、むしろ企業業績は全般的に良くなってきています。与信費用は巡航速度レベルになっているということです。

Q . 新健全化計画の平成 21 年度 実勢業務純益 800 億円は、現在の千葉銀行と同水準だと思う。現在、収益で地銀トップは横浜銀行だが“いつ頃に地銀トップを目指す”という見通しはあるか？

A . 前年度決算で地域金融機関トップクラスの収益を計上することができました。今回の計画では地域金融機関トップクラスの地位を確立することとしています。千葉銀行さんとはマーケットが異なりますし、東京も含めた営業を展開をされております。我々は埼玉県を唯一のマーケットとしており、無理をして短期間でトップを目指すということはありません。ただ、埼玉は恵まれたマーケットですから、まずはここできちんとした経営をすることでトップ3の地位を確保し、将来的にはじっくりと 1 を目指していきたいと考えております。

Q . 金利上げの収益への影響は？

A . 預金金利は貸出金金利に先行して一律で引上げさせて頂きました。貸出金金利の引上げは預金に比べ遅れており、また、個別に交渉しながら適用させて頂くものですから、収益への影響は今後徐々に表れてくると思います。金利上げは中長期的には銀行の収益にプラスに働くと思いますが、貸出金金利は短期プライムレートに連動したもの、日々のマーケット金利に連動したのもあり、従来の金利上げ局面と同じような動きになるかどうかは分からず、保守的に見ていくべきだと考えております。

Q . 実勢業務純益、純利益は過去最高益を更新したということでしょうか？

A . 過去最高益を更新しました。収益の増加額も地域金融機関トップクラスの水準だと思いましたが、100 億円単位の増加となった開業当初と比べれば(増加額は)当然、落ち着いてきています。

Q . 生体認証 IC キャッシュカードの他行との相互利用の検討状況は？

A . (我々は 10 月より指静脈認証 IC キャッシュカードの取扱を開始していますが、将来の生体認証の銀行間 ATM 提携に備え)手のひら静脈認証にも対応できるカードにしております。今後、各方面の動きを見ながら、お客さまにご不便を極力おかけしないようにしていきたいと考えております。まずは今の仕組みの中で生体認証対応 ATM の台数を増やすなどしてお客さまの利便性を高めていきたいと考えております。

以上